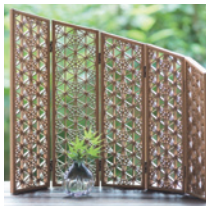
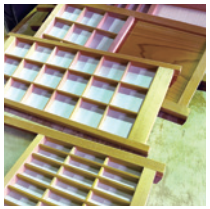
大正期の町屋を再生した新潟絵屋の空間に、
「組子」の技術と吉田新弥の感性を織り交ぜたさまざまな作品を展示します。

[組子]とは

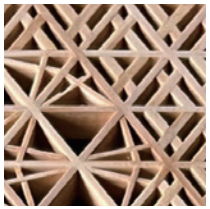
小さな木片を加工し組み合わせて、幾何学模様をつくりだす建具装飾の技術。細長い木片を幾重にも重ねて地組をつくり、様々なパーツを組み入れる。麻の葉、ゴマ柄、りんどうなどの伝統的な吉祥模様を組み合わせることでオリジナルな表現が可能となる。



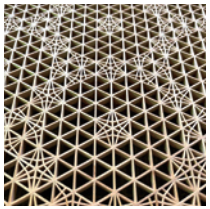
ミニ屏風ひめかざり重ねりんどう



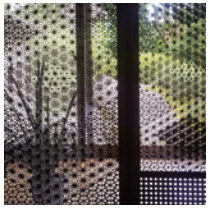
障子の木組みは多種多様



組み合わせによる様々な幾何学紋様



変わった組み方で展開も



数種類の模様を使った組分け模様